

企画講座

伊勢国司北畠氏の歴史①

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうという新シリーズです。第1回は石水博物館所蔵の「北畠顕能御教書」などを読みながら、初代伊勢国司北畠氏は誰かという問題を考えてみましょう。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!!

日時 3月15日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

伊勢湾の底にいる生物

講師 木村 妙子 三重大学大学院生物資源学研究所教授

三重県人ならば潮干狩りという言葉は御存じですよね。遠浅の伊勢湾は昔から潮干狩りの名所が多く、干潟に出かけて小さなクマデで砂を掘っているとアサリやハマグリなどのお目当ての貝だけではなく変な生物がいろいろとでできます。海の底には食べられる貝以外の二枚貝や巻貝、カニやヤドカリ、ゴカイ、ヒトデ、ハゼなど多彩な生物が棲んでいます。このように海の底にすむ生き物をまとめて底生生物(ベントス)と呼びます。海の生態系は環境と生物、生物どうしが密接につながり保たれています。ところが近年、伊勢湾の底生生物には大きな変化が表れてきています。人はどのように伊勢湾の環境を変え、底生生物はどのように変化しているのでしょうか。伊勢神宮のご祭神天照大御神が「常世の波が幾重にも帰する国である、ここにしようと思う」とおっしゃった伊勢の海、大切に守るために海の底にいる生物の変化を知る講座です。

日時 3月19日(金) 13:30~15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

漢字の旅「草・春・生」～高先生に学ぶ漢字は面白い～

講師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古い結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。今回、注目するのは、「草・春・生」。いち早く春を知らせる植物は草です。草は強い生命力と深い友情の象徴であることを、白楽天の詩「古原草」から教えてくれています。白楽天のエピソードを交えて、その代表作と「草・春・生」の甲骨文字を楽しみましょう。そして甲骨文字の書き方も教えていただきます。

日時 4月13日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名



「春・生」甲骨文字

「五月香」を楽しむ

講師 東 堯霞 香道御家流三條西宗家直門師範

「五月待つ花橘の香をかげば昔の人の袖の香ぞする」 古今集 詠み人知らず
(五月を待って咲き始めた花橘の香りをかぐと、昔に慣れ親しんだ人が袖に薫き込めていた香りを思い出します)
「五月香」の証歌(上記)は古今和歌集の夏の歌にはいっていますが、伊勢物語の第60段「花橘」にも収録されていて、すでに夏の候となっている旧暦の五月に咲く花の香りから、一瞬のうちに過去の幻影を見た、そんな男の情感を感じます。五月をその鳴き声の最盛期とするホトギスが宿る花橘は、やはり五月の花として、清楚な花をつけ、香りは強く、その季節に本来の美を発揚するとされていました。そんなイメージからの今回の香り。香名「夏の日」は寸間多羅、「白き花」は佐曾羅、「はととぎす」は羅国、「思い出」は伽羅。それぞれの香りを優雅に聞き分けて、旧暦の五月に咲く橘の花や、歌を詠んだ在原業平の心に思いを馳せましょう。

日時 4月13日(火) 18:30~20:30 参加費 会員 5,300円 ビジター 5,800円(香筵料・食事代・お菓子代含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

祝詞について

講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

平安時代中期に成立した古代法典の一つに『延喜式』があります。延喜式は50巻から成りますが、その巻8は「祝詞式」です。祈年祭祝詞をはじめ、今日全国津々浦々の神社の祈祷所で奏上されている祝詞の祖型が「延喜祝詞式」にあるといえます。そのため、祝詞には今日でも頻繁に奏上される精妙な言葉がたくさん存在するのです。例を挙げると、「奥津御年」「伊加志」「湯津磐村」「御稜威」などで、日常会話では聞き慣れない言葉が散見します。「おきつみとし」は晩秋に実る稲を象徴し、「いかし」は立派なとか見事なという意味で、最も多様化されている表現です。「ゆついわむら」は神聖な磐が群がっている様子を表し、「みいつ」は霊妙なという意味から「いつのみたま」などの表記に発展したりします。また祈年祭祝詞にみられる「生井」「栄井」「津長井」は、五十鈴の川上に鎮座する内宮の立地条件にも適した言霊でもあるのです。今回は祝詞の言葉の持つ真意をじっくり解説いたします。

日時 4月19日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

春の星見と最近の宇宙事情

講師 野田 学 名古屋科学館学芸課天文主幹

にぎやかな冬の一等星たちや火星が西に傾き、上弦過ぎの月が南の空に輝いています。あの月から中国が(昨年)12月に、44年ぶりに月の石(土壌サンプル)を持ち返りました。日本では「はやぶさ2」が小惑星リュウグウのサンプルを無事届けてくれています。国際宇宙ステーションにはアメリカの民間初の有人ロケット「クルードラゴン」に搭乗した野口宇宙飛行士が長期滞在中です。最近の新しい技術により宇宙開発や太陽系探査が随分様変わりして来ています。野田先生に最近の宇宙事情についてのお話を伺います。

日時 4月22日(木) 18:30~20:30 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円(お菓子付き)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

醤油の秘密

講師 江藤 正剛 しょうゆもの知り博士・三重県醤油味噌工業協同組合営業部

日本の食卓には欠かせない醤油ですが、みなさんはどれだけ醤油についてご存じでしょうか? 醤油はおもに薄口醤油、濃い口醤油、再仕込み醤油、たまり醤油、白醤油の代表的な5種類に分類されます。あまり味がしっくりこない料理に醤油をかけたら美味しくなったという経験はみなさんありませんか? 料理をおいしく感じるためには、食べたときに急激な味、特に酸味の変化が起きないようにする力「緩衝能」が必要です。醤油はこの緩衝能が強く、酸性度の異なるものを、おいしく感じる弱酸性に近づけるとい、すごい力を持っています。その他にも殺菌作用、臭みを消す働き、塩味を和らげるなど様々なパワーも持っているのです。味、色、香りなどの違いを実際に体験し、万能調味料の醤油についてもっと知りましょう。

日時 4月26日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 1,000円 ビジター 1,500円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

伊勢西国三十三所～もう一つのお伊勢参り～③

講師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

文化庁の日本博事業の一つに選ばれた「伊勢西国三十三所観音巡礼」。伊勢国の観音巡礼は、伊勢神宮周辺から多度大社周辺まで、街道沿いに点在する「観音さま」のお寺39ヶ寺を巡ります。3回目は、伊勢やその周辺部から離れ、いよいよ雲出川を渡り津へ。かつて、安濃津の港で栄え藤堂藩が治めた城下町。ここにはどんな観音さまがまつられているのでしょうか。また伊勢神宮との関わりはあるのでしょうか。

日時 5月17日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

日本書紀千三百年を祝して～日本書紀を巡る世界 その1～

講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

2020年は日本書紀が完成して千三百年の記念の年でありました。各地でお祝いの行事が行われるはずでしたが、新型コロナウイルスのため、多くの行事が中止や規模縮小という残念な年となってしまいました。神話に始まり日本国の誕生から持統天皇までを記録した書物で、古事記と二つ合わせて「記紀」とも呼ばれます。古代史の基本史料であり、「六国史」と呼ばれる官撰の歴史書の第一番目でありながら、古事記より「読んだことない」と言う人が多いのもまた事実。それには戦後の微妙な歴史観も影響しているものと思われます。

日本書紀をとりまく世界をお話ししながら、本文を読むことも少しできたらなと思っております。

日時 5月27日(木) 18:30~20:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

楽しい俳句

講師 石井 いさお 俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰

わずかに17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことをいえば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らずに5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

期日 3月24日(水)・4月28日(水)・5月26日(水) 時間 各回10:00~12:30 定員 20名
参加費 各回 会員 1,550円 ビジター 2,050円(資料代含む)